平成２８年度　南房総市総合教育会議会議録

１　日　　時　平成２８年１１月２８日（月）午後４時３０開会～午後５時２０分閉会

２　場　　所　南房総市役所本庁舎　２階第２会議室

３　出席者　　市　長　　石　井　　裕
　　委員長　　小　宮　　忠
　　委　員　　岡　﨑　俊　明
　　委　員　　庄　司　美　佳
　　委　員　　石　井　美智代
　　教育長　　三　幣　貞　夫

４　事務局　　教育次長　宇治原　洋　一
　　参　事　　渡　邉　　均
　　教育総務課長　奥　澤　基　一
　　子ども教育課長　水　島　孝　夫
　　生涯学習課長　田　村　耕　一
　　教育総務課課長補佐　松　本　省　吾
　　教育総務課副主幹兼総務係長　佐　久　間　正　博
　　教育総務課副主査　野　村　留　美

５　開　　会　宇治原教育次長が開会を宣言

６　市長あいさつ

７　協議・調整事項

（１）南房総市の教育行政について

市長　私の教育理念といいますか、教育行政の進め方については、これまでと今のところ大きな変化はありませんので、教育委員のみなさんには、私の考え方にはご理解いただいているのかなと思っております。

みなさんのお手元の資料に記載しております内容を、教育の基本的な重点的な取り組み内容として、これからも引き続き行政としては教育委員会と協力して進めてまいりたいと思ってお

ります。

財政的な面で申しあげますと、市は決して楽ではございませんけども、教育費に関しては引き続きこれまでと同じスタンスで臨んでいきたいなと思っております。

最近のことで申し上げますと、わたしの知り合いの中に特別支援員の方がおりまして、現場ではこうなんですよという話も聞きます。そういう子どもたちが増えてきているのか、以前からそういうお子さんたちがいらして、ここにきて顕在化してきているのかわからないですけども、そうした部分に関しては、そういうお子さんや家庭を支援するという意味では、力をいれていかなければいけないかなと思っております。力をいれていくとなると裏付けとして財源も必要となってくるので、一体となって率直のところきます。ですからすべて万全の態勢というのはなかなかとれないかもしれませんけれども、引き続いてその分野に関しては力を入れていかなければいけないかなと思っております。

繰り返しになりますが、そういうお子さんが増えてきている、あるいは顕在化してきている理由や原因がどこにあるのかわかりませんが、どういったところから支援していくことが必要なのかプロであるみなさんからのご助言をいただきながら、体制をしっかり整えていけたらなと思っています。

最近感じたことでいいますと、学力の向上ということで力を入れてきているつもりでいますけれども、昔でいえば、読み書きそろばんということで、いろんなことを進めさせていただいておりますけれども、教育のなかであれもこれもとあまりいいたくはないんですけど、プラスアルファとしてコミュニケーション能力というか、そういう力がいまの子どもたちというのは、普通の生活で得ていたものが、どうしても落ちてきているのかなと感じています。

最近では、落語から学ぼうというのがテレビで取り上げられることがありますけども、あれイコールコミュニケーション能力とはいわないかもしれませんけれども、ひとつのコミュニケーション力の表れとして、ああいったことがあるのかなと思いますけども、最近の子どもたちを見ていると、読み書きそろばんだけではなくて、いわゆるコミュニケーション能力というものが必要なのではと強く感じます。

日常的に考えることで、よく教育長と話しますけども、子育ての環境という意味では、現実離れしているかもしれませんけども、今でもそういう環境が整備できればいいなと思っているのが、乳幼児を育てる環境という意味では、自論になってしまいますが０歳・１歳・２歳のこどもたちは預かるとか預けるとかでなくて、親元で育って欲しいなと、むしろ親元で育てるということを支援できる環境をつくっていくことが大事ではないかなと今でも思っています。

予算的なものが許せば、モデルケースとしても進めていきたいぐらいなんですけども、すぐにどういった成果が見えるかもわからないので、難しいかもしれませんけども、本当はそうした事業を進めていきたいなと私は考えております。

委員長　ここに書いてあることを見させていただいても、学力向上から就学前保育・教育まで南房総市が実施している教育内容は、飛びぬけて優れているし、手厚いなという思いがします。就学前の保育教育については、預かりに関しても非常に手厚い施策がされていて、大変ありがたいと思っています。また、障害を含んで特に支援が必要なお子さんに対する支援員の数といったところから見たら、ものすごい充実をしていて大変ありがたいです。ひとつ心配なのは、財源なんです。これを是非続けてほしいと考えますが、そうなりますと人件費なりが継続して出て行くということで、いろんなところから費用対効果はどうなんだということの問い合わせは無いのかな、またあった時に良い情報を上げられたら良いなと思います。

市長　財政的なことから申し上げますと、議会では費用対効果はどうなんだというご質問やご指摘はこれまでありませんし、そういった意味では議会にもご理解いただいているのかなと思っています。５年・１０年というスパンの中では、財源的にはこれまで通りやっていけるだろうと思っています。

岡崎委員　大きな枠組みの中のこうした部分では、概ね市民の方はすばらしい取り組みだと理解してくれていると思います。バウチャー制度とかいろんな取り組みが、経済格差が学力の格差につながらないという思いでやっている。

市長　こういう子育てに力を入れている市なんですよということを外部の方にも知っていただいて、それなら南房総で子育てしようということで、こちらで暮らそうという方が、一人でも二人でも増えてくれれば良いなと、本来の教育目的とは違いますけども、そういったことにつながっていければ良いなと、複式的な効果を求めていきたいなと思っています。

教育長　私が再生会議の委員に選ばれたのは、一番の南房総市の教育に関する施策が評価されたことの最たるものと思います。

庄司委員　市民の方々に学校に来てもらう見学ツアーとか、学校っていうと子どもがいなくなると敷居が高いところになるし、お子さんがいない家庭もたくさんいらっしゃるわけですから、そういう方々にどんどん足を運んで、こんなことをやっているというのを直に見てもらうというのがとても良いことだと思います。また、いろんな人が入ってくることによって、生徒・児童の緊張感とかアイコンタクトとか、そういうのもコミュニケーションだと思うんですけども、そういうものがいろんな経験として育っていくんではないかと思います。

今年も国内外からいろんな、例えばＪＩＣＡの人とかたくさんの方が来られてますよね。そうすると、生徒・児童も外国の方と接する機会も増えてきて、自分たちは日本人だという気持ちもあるし、ああいう国の人もいるという違いもわかるし、その中でどんどん学校も統合してきていて、楽器とか理科の実験道具とかいろんなものが余っている状況をみていると、開発途上国の、教室もないような学校にいる子どもたちにあげたいなというのが非常にあります。

岡崎委員　高等学校なんかだと、生徒が主体になって海外との交流があって、そんなにお金

をかけずにできたりしている。大規模でなければ、そんなにお金をかけずに中学生ぐらいだったら主体となって、やりがいを持ってできるんじゃないかと思います。各学校でそういった取り組みができるといいかなと思います。

教育長　統合しましてから、机と椅子とかが結構残っているのかなと思います。古いB版の机・椅子がどうなったのか。今、生徒用の机、A版の大きくしてありますので、隣の鋸南町に行ったら、まだB版の机で小さかったですね。

そういったものを、そのまま送るんではなくて、生徒が綺麗に拭いたりとか塗装し直したりとか、ただ輸送の費用が別途かかりますが、その辺も検討しながら考えてみたいと思います。

石井委員　私は保護者の立場として感じていることですが、今年度は子ども園に養護の先生も配置していただきました。また、災害時等の預かり保育も幼稚園児に実施をしていただくことになりました。

塾助成券事業も放課後子どもクラブも、だんだん周知されるようになって、実績があがってきている。だんだん教育の環境がさらに整ってきているんだなというのを、まわりの保護者の声からも自分でも、とても感じることができます。

市の財源も大変だと思うんですけども、南房総市の理解や思いがこういった新たな事業実現に繋がっていってるんだなと実感しています。こういった良い事業が長く続くように、保護者・市民の声を受け止めて、引き続き市のほうへはがんばっていただきたいと思います。

委員長　学校が統合されて、スクールバスが多くなりました。それによって歩く距離の減ってきた子どもたちが、かなりいるんじゃないかと。毎日少しずつでもその積み重ねが、学校に通う日にち、２２０日ぐらいが毎日歩かないという様な状況になってきたときに、それが５年後なり９年後という様なときに、体力の面でのひ弱さに繋がらないかなという心配があります。

これは学校の中で考えていかなくてはいけないこともあるんじゃないかと思うんですが、その辺はまだデータもわかりませんが、おそらくという私の懸念ですが。

教育長　学校再編の会議の中で出てまして、小学校でいうと２キロですよね。２キロを超えたらバスというのはルールができちゃってましたんで、それでやってきてるわけですけど、たしかに３キロ４キロぐらいは、歩かせてもいいのかなと。そこで答えは、確かに体力的なものも懸念します。一応そういうルールで学校再編を進めてますんで、学校再編が終わったあとに通学距離とかそういうのは市内まとめて、考えてみたいと思います。体力的なものとあとは精神的な面ですよね。要するに、雨風強い日に自分で歩いて、誰も頼れないで自分の力で歩いてくるという、そういうような経験とか体験が、自分も振り返っても頼るものは自分しかないと、たとえ小っちゃな範囲でもそういう思いを持ちましたんで、考えなくてはいけないと思います。

別な問題がですね、交通関係とかあるいは不審者だとか、そういった面の安全面を指摘されますと、ちょっと難しいなという部分はあります。いずれにしても、課題のひとつだとは思っ

ています。

市長　今の子たちはルール化された環境の中で育っていくわけですけど、ルールのない状況の中でどうやって乗り切っていくのか、どうやって楽しさを見つけていくとか、自分にないものを充足しようか考えていくかとか、そういった力が落ちてきますよね。ルールのない中で、突発的な状況の中で、どう自分は生きていくのかとか。答えのないものをどうやって自分で見つけ出していくのかとか、そういうことをなんらかの形で心掛けなければいけないですよね。

岡崎委員　そういったことを提供するとすると、学校の中ですよね。学校の行事で体を使って動かすような、行事の中に盛り込んでいくというのも必要なんでしょうね。

庄司委員　スクールバスは、乗るか乗らないかは個人の自由ですよね。なので、千倉小でも乗らずに自転車で登校しているお子さんもいるし、よその地区は自分たちもそうだったという親御さんの考えのもと、子どもたちもそうしているとか。あと、和田中時代は、ほぼ自転車でスクールバス無かったんで、北三原・上三原の方からも自転車で来てたんですけど、その子たちが嶺南になってバスに乗る子もいますけど、自転車を選んだ子たちもいて、安全面とかもありますけど、自由に選ぶことになっているので。

教育長　市長が親元で育てる、０歳から１・２歳まで。私は思うんですけど、意図的に理不尽な環境に置かせたいというふうなことがあるんですけど。自分が校長なら、校長の責任の範囲内でできたんですけど、今は、各校長のもとに、全部やりなさいということが言い切れないなと。具体的に言えば、中学３年になると大体の学校が京都・奈良に修学旅行に行くわけですよね。地元の神社に行ったことがない子どもが、京都の神社に行って、ガイドブック見て一生懸命自分でコース選んでグループで行くのって、果たしてどんな意味があるのか、どんな達成感があるんだという思いを言い続けているんですけども、なかなか変えきれないところがありますが、思いとすればそういうのをやりたいなと思っています。

サケというのは生まれた川に帰ってくるわけではないんです。生まれ育った川に帰ってくる。いかに南房総で育ったという実感をもたせられるかというのが、大きなテーマかなと考えています。

石井委員　この辺が南房総学とうまくコラボレーションというか、うまく回っていくと良いですね。

教育長　すべて用意された中で体験するんではなくて、自分たちが考えたり、うまくいかなかったりとか、そういう体験のある南房総学にしたいなと思っています。

８　閉　会　宇治原教育次長が閉会を宣言